

中学校(第1学年)「保健・体育科」

○授業のねらい

- ・成長により、自身の心と体が変わってくる意味と、その時期に起こりうるトラブルについて理解する。
- ・人間の感情と欲求について、生命の誕生と関連付けて考え、適切な対応の仕方を身に付ける。
- ・互いの気持ちを尊重したコミュニケーションの取り方等、よりよい人間関係を構築しようとする態度を養う。

○指導形態(工夫したこと)

- ・性について自分事としてとらえ、困ったときに相談できる人間関係づくりや相談の仕方について学ぶために、学級担任、養護教諭、地域の助産師、スクールカウンセラー等、関係機関と連携して3時間計画で授業を行った。

授業の内容



「助産師による授業の様子」

<実際の授業で工夫したこと>

導入

- ・生徒の心や体の変化に関する悩みについて、事前にアンケートをとった結果を提供し、興味関心を高めた。

展開

- ・生徒の心や体の変化、中学生が巻き込まれやすいトラブルについて、助産師やスクールカウンセラーが講話を行った。

終末

- ・授業を通して学んだこと、感じたことを用紙にまとめさせ、次年度の学習の際に活用できるようにした。

<児童生徒や指導した教員等の感想>

- ・この授業を受けて、自分の体のことは、自分で決めるものだから、大切にしたい、嫌なことがあったらきっぱりと断った方が自分のためになると思った。(生徒)
- ・養護教諭、スクールカウンセラー、助産師それぞれの立場から話をすることで、生徒の理解をより深めることができた。より専門的な知識を伝え、考えさせることができた。(教師)

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

- ・養護教諭による「性の指導」、助産師による「性教育(命の教育)」、スクールカウンセラーによる「こころの授業」の3つの柱で授業を行うことができた。
- ・生徒間のトラブルは、思春期の発達段階により自分の心と体が変わることによって引き起こされることがある点を理解させ、トラブルを回避する行動を指導することで、減少傾向が見られた。
- ・性的同意、自分の体を大切にする、お互いの気持ちを尊重したコミュニケーションの取り方等を一人ひとりが考えるきっかけとなった。

○今後に向けて

- ・日常的な関わりの中で、授業で触れたことを繰り返し指導していく必要があるため、校内で共通理解し、統一した指導ができるように発信していく。
- ・今年度は、保健体育科の学習として同時期に3時間実施したが、年間を通して各教科や道徳、特別活動の指導内容から適切な時期を考えるなど、今年度の授業を振り返り、指導内容を改善したり、資料をまとめたりして、系統的な指導計画を作成する。